

地域おこし協力隊の そっちょっちょ! 高千穂

夏休み「たかちほ昆虫展」

ユネスコエコパーク自然体験ガイドの甲斐有香です。

9月で協力隊に着任して3年目となりました。この2年間でたくさんのお子様たちに高千穂町(ユネスコエコパーク)の自然を体感してもらう企画を計画してきました。その中の一つが「たかちほ昆虫展」です。

この夏も中央公民館のロビーに昆虫標本を中心とした展示を行いました、たくさんの方に観ていただくことができました。

今回は、宮崎県立博物館の貸し出し標本数も増やし、地元の方や小学生が作成した昆虫標本も展示しました。

また、虫眼鏡を置いたり、360度観察できる標本やさわれる標本、みつけ、絵探し、迷路、クイズなど、より楽しく観て学ぶことができる工夫を施し、子どもたちには昨年以上に身近に感じていただけたのではないのでしょうか。



昆虫標本 24 箱を定期的に入れ替えながら展示。エコパーククイズや昆虫クイズも展示。

高千穂にいるたくさんの昆虫の標本や写真を展示。説明等も子ども対象に作った展示でしたが、「最近見なくなった」「赤とんぼの種類がこんなにあるなんて」「子どもの頃した標本づくりを思い出す」など大人にとっても、再び高千穂の自然を近くに感じ、楽しんでいただけた展示になったように思います。

2回目ということで昨年からのリピーターも増えて、保育園単位で身に来てくださったり、何度も足を運んでくれる家族がいたり、2人で真剣にクイズに答えている親子がいたり、それぞれが楽しんでいる姿を見ることができました。



足を運んでくれた保育園の様子。興味深々。クイズも楽しんでくれました。



地元の方の標本展示。360度観察できる標本。

この場を借りて、今回標本を使わせていただいた皆さまにお礼を申し上げます。高千穂で採集された昆虫で昆虫展ができる日も近いように感じます。

昨年も同様をお願いをしましたが、いい標本をお持ちの方はぜひお声掛けください(笑)



壊れてもいい標本を使い、触れる標本を展示。クロアゲハやミヤマクワガタ、マルハナバチを初めて触った子もいたようです。



甲斐 有香
Kai Yuka

ゆかいさんとして活動中。令和4年8月コロナ流行をきっかけに夫の地元である高千穂へ移住。9月に総合政策課所属の地域おこし協力隊に着任。子どもを対象とした自然体験企画の開発を担当。

姉妹都市スポーツ交流事業 豊見城市スポーツ少年団が来町

9月21日、豊見城市スポーツ少年団バレーボール競技の団員15人と役員ら8人が、2日間の日程で本町を訪れました。1日目は、高千穂神社と同神楽殿にて神楽を見学。2日目は、町スポーツ少年団バレーボール競技の団員らと試合をした後、バーベキューをするなどし交流を深めました。あいにくの天気で、予定をしていた観光地巡りが取りやめとなりましたが、楽しんで出となりました。



持続可能な社会の実現に向けて 畑中小水力発電所が完成

9月26日、岩戸土呂久地区で、畑中小水力発電所の竣工式が行われました。持続可能なエネルギーの供給や脱炭素社会の実現に向けた再生エネルギーの活用として、町が実施主体となり整備。発電した電力の売電収入で、用水路などの農業水利施設の維持管理費に充て農家の負担を軽減するとともに、地域の活性化につなげる取り組みにも活用することとしています。



美しい自然と調和した良好な道路景観の創出 高千穂郷日本一の道づくりに認定

9月4日、天岩戸橋側道橋において、アダプト看板の除幕式が行われました。県西臼杵支庁では、管内で管理する道路において、清掃や沿道の植栽などを行う「アダプト活動」の協定を企業や団体と締結し、「高千穂郷日本一の道づくり活動」として認定。今回、管内初のPR看板設置となった「岩戸地区公民館連絡協議会」の佐藤毅会長に黒岩賢一西臼杵支庁長から認定証が手渡されました。



名所を進みながらゴールを目指す 日本一の神話の町「高千穂すごろく」

9月6日、高千穂町観光協会(竹尾通洋会長)が製作を進めている「高千穂すごろく」の試作品が完成。そのお披露目として、関係機関や高校生による公開対戦が行われました。町内の名所をPRする目的として、宿泊所で遊んでもらおうと竹尾会長が発案。宮崎大学のインターンシップ生と町出身のデザイナー工藤恭弘さんが製作を進めてきました。11月をめどに各宿泊所に配布予定です。

